

日本共産党 さいたま市議会議員

松村 としお

無料生活相談

第1・第3水曜日：午後3時～5時

無料法律相談

第3水曜日：午後3時～5時
弁護士が相談にのります

お問い合わせ・申し込み

松村としお事務所：緑区三室 2713-4
TEL・FAX 874-9666

日本共産党さいたま市議団

さいたま市浦和区常盤 6-4-4(さいたま市議会内)
TEL 048-829-1811 FAX 048-833-8165



スクラップヤード規制実現!



市内に130カ所ほどあるスクラップヤード（再生資源物置き場）。緑区にも多く、騒音や振動など住環境に悪影響をおよぼしているケースがあります。党市議団として、他自治体のように規制条例をつくることを求めてきましたが、今議会で「再生資源物の屋外保管に関する条例」が全議員の賛成で可決されました。新たにスクラップヤードをつくる場合には住宅地から100m離す、住民と事前協議を行う、などの規制がかかります。問題は、すでにある施設の場合は、囲いの設置や苦情等に関する相談窓口設置・周知などが求められるものの、一部の規制しかかからないこと、さらに、資材置き場扱いの場合は規制がかからないままです。私は「条例の施行状況を見て改善していくのか」と質問。市は「条例の目的に照らし、支障があれば改定していく」と答弁しました。住環境が守られるよう引き続きとりくみます。

子ども医療費

高校卒業まで無料へ



さいたま市は12月議会で、来年度中に子ども医療費の無料制度を高校卒業まで延長することを表明しました。党市議団で議会質問で取り上げたり市民請願に賛成してきた政策であり、歓迎します。

しかし詳細が不明なことから、党市議団として「所得制限や自己負担を将来にわたって導入しないよう」求める要望を市に提出しました（左写真）。市は「来年度実施しても所得制限などはしない」としつつ、将来については否定しませんでした。党市議団は、子育てにかかる負担に所得制限を設けるべきではないと考えます。今後も注視していきます。

「分かりづらい住所を整理する」ための条例ができました

条例の名前は「町名町界審議会条例」。三室地域などの方から「住所がわかりにくいので整理してほしい」という声があり、毎年の予算要望で対応を求めてきました。さまざまな手続きや住民の合意が必要ですが、地番整理などの手続きが整いました。



共産党市議団は反対

市長・議員の報酬・ボーナス引き上げ



市長など特別職は56.4万円、議員は32.1万円、それぞれ報酬・ボーナスを年額で引き上げる議案が出され、私たちは反対しましたが、賛成多数で可決されました。社会全体では、賃上げで暮らしを支え経済を活性化させるべきと考えますが、高額な報酬が払われている市長・議員を同列には置けません。私たちは増えた分の報酬を議会報告ピラなどで市民のみなさんに議会や市政のことをお伝えするために使います。

●市長など特別職給料月額

役職	現行	改定後
市長	121万円	122万9000円
副市長	95万1000円	96万6000円
水道事業管理者	79万7000円	80万9000円
教育長	79万2000円	80万4000円

●議員報酬月額

役職	現行	改定後
議長	97万7000円	99万2000円
副議長	87万3000円	88万6000円
議員	80万7000円	81万9000円

原山市民プール

存続署名さらに増え7538人に



署名の追加提出に立ち会う(左)

原山市民プール存続を求める市民の声を無視するかのよう、市はレジャープールを大幅に減らす方針を11月末に決定しました。沼影市民プールを廃止し、代替りのプールを作る土地が見つければ、原山市民プールも廃止する方針です。

12月議会では代替地さがしを民間委託する補正予算が可決され、同時に原山市民プールの補修や指定管理5年延長も決まりました。さらに、沼影公園の廃止、同公園内の沼影市民プールの解体など関連で約16億円も使う予算も可決されました。いずれも私たちは反対しました。

子どもたちをはじめ、幅広い年代に親しまれている原山市民プール存続に引き続き力を尽くします。

男女共同参画推進本部

女性比率はたったの2.6%

私は市民生活委員会でさいたま市のジェンダー平等のとりくみ（市の施策名称は「男女共同参画」）について質問しました。

さいたま市の司令塔は「男女共同参画推進本部」（本部長は市長）ですが、女性比率はわずか2.6%。「政策・方針決定過程への女性の参画の拡大」という市の方針に照らしても少なすぎます。また非正規雇用である会計年度任用職員の女性比率は81.7%です。私は女性の貧困解消や経済的自立の観点から、会計年度任用職員の処遇改善を求めました。誰もが自分らしく生きられる、安心して暮らしていける社会にするうえでジェンダー平等は大事な課題です。

